

# 日本と諸外国におけるフードロスに対する意識の差

土浦第一高等学校

2年B組 関口 颯真 2年E組 眞家 孝太郎

探究指導教員 上田 千晟 先生 岡部 真二 先生

英語指導教員 廣岡 大介 先生

## 【abstract】

Food loss is currently a worldwide problem. In Japan, 4.72 million tons of food is wasted annually, or one onigiri per person a day. A survey of the difference in awareness of food loss between Japan and other countries confirms the low level of awareness of food loss among the Japanese.

## 【要旨】

現在、フードロス<sup>1</sup>は世界中で問題となっている。日本では年間 472 万 t、1 人当たり 1 日におにぎりを 1 つ廃棄している計算となる。ここで、日本と諸外国のフードロスに対する意識の差を調査すると、日本人の食品ロスに対する意識の低さが確認された。

## 1. 探究動機

フードロス問題は環境に 2 つの問題を引き起こす。1 つ目は食料生産に多量のエネルギー消費、2 つ目は廃棄の際に運搬や焼却から排出される CO<sub>2</sub> の問題である。さらに、フードロスの処理コストの増加も問題視されている。

ここで、現在の日本においてフードロス問題に対してどの程度周知されており、諸外国との意識の差を調査することによって、日本におけるフードロス問題解消の糸口になると考える。

---

<sup>1</sup> 食べられるのに捨てられてしまう食品

## 2. 探究方法

- ・ フードロス問題に対する具体的な取り組みについてのインターネット、仙台 FW<sup>2</sup>調査
- ・ 前調査で得た取り組みに関して本校生徒と外国人観光客の認知調査
- ・ インターネットを用いた日本と諸外国におけるフードロス問題に対する取り組みの比較

## 3. 本論

### ① フードロス問題に対する現在の取り組みについて

現在日本では、フードロス対策として、フードドライブという活動が各地で実施されている。フードドライブとは、フードバンクが家庭で余っている食品を集め、食料を必要とする人々に寄付する活動のことである。

### ② フードドライブの認知調査

フードドライブの認知度を調べるために、本校生徒 50 名と外国人観光客 50 名にフードドライブを知っているかどうかのアンケートを実施した。以下の円グラフが結果である。

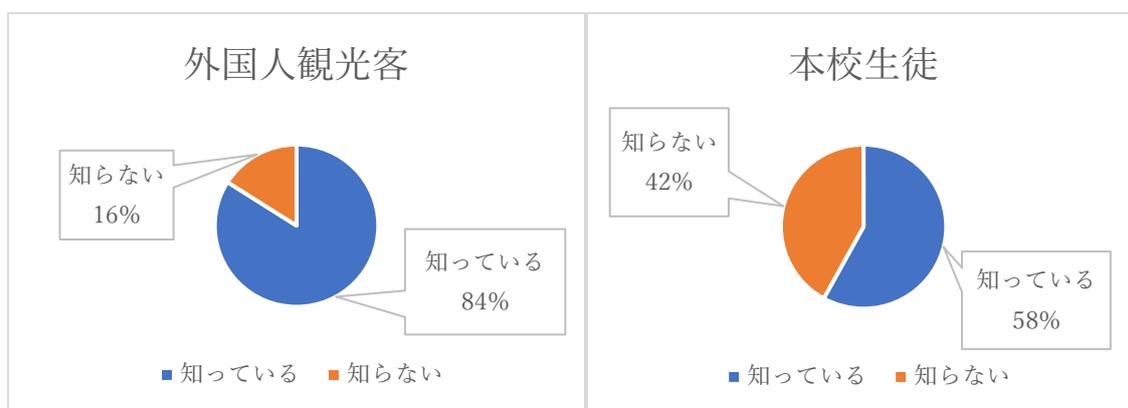


図 1

図 2

図 1 と図 2 を比較すると、無作為に抽出した 50 人のうち、外国人観光客のほうがフードドライブについて認知しているという結果になった。つまり、諸外国のほうが日本よりもフードロスに対する意識が高い傾向がある可能性がある。

次に、インターネットを用いて日本と諸外国における食品寄付量について調査を行い、この仮説を裏付けるデータが得られるか調べる。

<sup>2</sup> フィールドワークの略称

### ③ 日本と諸外国における食品寄付量のインターネット調査

実際に国ごとの食品寄付量を調べるために、フードバンクの食品寄付量を国ごとに比較できるデータをインターネットで調査した。下の図3が調査結果である。ただし、図における対数は常用対数を示す。

#### 一人あたりの寄付量 と 国

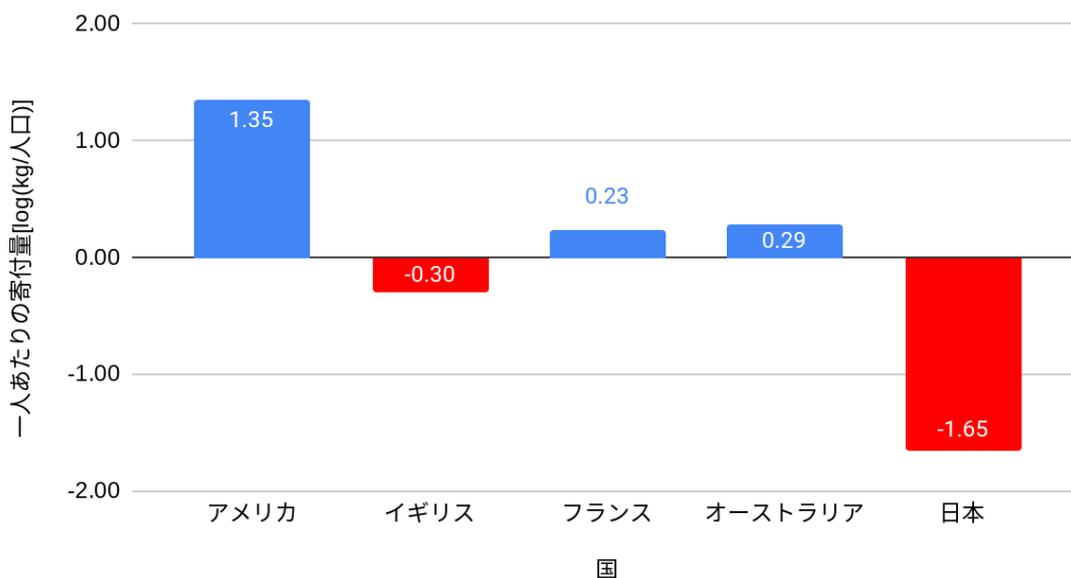


図3

上のグラフは、アメリカ、イギリス、フランス、オーストラリア、日本における、国民一人あたりの食品寄付量を示している。このグラフから、日本の食品寄付量は少なく、フードドライブの発祥国であるアメリカや、フードバンクの長い歴史があるフランス、オーストラリアなどの国の食品寄付量が多いことがわかる。この結果から、日本にはフードドライブがあまり浸透していないと考えられる。

#### 4. 結論

本調査より、日本における食品寄付の意識が諸外国と比較して低いことが確認されたが、では実際に本校ではどの程度の食品が集まるのかを最後に実施し、本論文のまとめとする。

2024/11/11(月)~2024/11/15(金)のうち水曜日を除く4日間、フードバンク茨城の協力のもと、本校においてフードドライブを実施した。本校には生徒数960名、教職員数103名が属している。次に集まった食品を写真で示す。



期間が短く、宣伝も不十分であった問題もあり、決して多いとは言えない食品数である。しかし、フードロス問題に対する意識高めていけば、同条件であっても多くの食品が集まり、問題解決に少しずつ繋がるのではないかと我々は考える。

## 5. 謝辞

本論文の作成にあたり、ご協力を頂きました皆様に感謝申し上げます。

調査をするにあたり、仙台FWでは仙台市役所環境局資源循環部家庭ごみ減量課の皆様、校内におけるフードドライブ実施においては NPO 法人フードバンク茨城の五十嵐様には大変お世話になりました。また、私たちの探究活動に協力していただいた山崎製パン株式会社様には大変ご迷惑をおかけしましたことを誠にお詫び申し上げます。

## 6. 参考文献

農林水産省ウェブサイト.”食品ロスとは”

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/161227\\_4.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_4.html).(参照 2024/8/20)

仙台市ウェブサイト.”フードドライブ”

<https://www.city.sendai.jp/haiki-shido/faq/gominodashikata/dashikata/095.html>.

(参照 2024/8/20)

農林水産省ウェブサイト.”食品ロスって何が問題なの？”

[https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2310/spe1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2310/spe1_01.html).(参照 2024/9/27)

田所莉沙(2022.8.22).“食品ロスとは？原因や日本と世界の現状、家庭でできる対策を紹介”.

SDGs CONNECT. <https://sdgs-connect.com/archives/50288>.(参照 2024/10/4)

みずほフィナンシャルグループ(2021.2).”諸外国における食品寄付の実態等に関する調査業務”.

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/efforts/assets/KaigaiReport\\_summary.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/assets/KaigaiReport_summary.pdf).(参照 2025/1/8)

農林水産省 (2009.12.7).”海外におけるフードバンク活動の実態及び歴史的・社会的背景等に関する調査”.

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/attach/pdf/161227\\_8-7.pdf](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/161227_8-7.pdf).

(参照 2025/1/20)